



多くの人が利用しやすい官庁施設をめざして



バリアフリー・ユニバーサルデザインとは

最近では、「バリアフリー」や「ユニバーサルデザイン」という言葉を耳にする機会も多いように思います。

バリアフリーは、障害者や高齢者などの利用を妨げるもの（バリア）を無くしていくことを表しており、ユニバーサルデザイン（以下、UDと呼ぶ）は、障害の有無、年齢、性別、言語にかかわらず、だれもが利用しやすい環境をデザインすることを指しています。

どちらの言葉も「多様な利用者に配慮する」という意味で用いられ、公共建築物では重要視されています。

私たち営繕課・営繕監督保全室が整備を行っている「官庁施設」には

様々な規模、機能を持った建物があります。また、建物の利用者も障害者や高齢者、子どもや乳幼児連れ、外国人など幅広くなっています。そのような状況から、整備を行う際はそれぞれの施設の特徴を把握し、あらゆる利用者を想定したバリアフリーやUDに取り組んでいます。

官庁施設のユニバーサルデザイン

現在、官庁施設では、多様な利用者に配慮する取り組みとして、平成18年に制定された「官庁施設のユニバーサルデザインに関する基準」に基づき、UDレビューを行っています。UDレビューでは、専門家や施設利用者からの意見を聴取したり、実物大模型による現場確認などを実施し、利用者ニーズの収集と解決策を検討します。

また、実施する際は（企画・設計・施工）の段階に分けて行い、最終的には出来上がったものを評価してフィードバックする流れとなっています。

下記では、沖縄総合事務局が入居する那覇第2地方合同庁舎で行ったUDの事例を紹介します。



階段

階段はゆとりを持たせて1段の高さも低い。手すりは使う人にあわせて2段、先端には点字表示がある



多機能トイレ

車いすやベビーカーが利用できる広さを確保。オストメイトに対応し、ベビシートや緊急呼び出し装置を設置



玄関

歩道から連続して建物内部まで誘導ブロックを設置。音声誘導装置による案内も行う



サイン表示

廊下のコーナー部分、目立つ位置に案内サインを設置



案内板

玄関ドアの近くに点字表示とインターホンを付けた案内板を設置



駐車場

5台分の車いす使用者用駐車スペースを設けている

夏休みにあわせて開催されたこども見学デーでは、「バリアフリー教室」を実施しました。多くのこどもたちの参加があり、3つすべて体験したり、同じ体験を2回行う様子も見られました。こどもたちはまっすぐ歩くのに苦労したり、少し進むだけで疲れてしまうといった感覚に興味をもったようです。今回の体験を通して、私たちが行っている取り組みや官庁施設を知ってもらう良い機会になりました。

体験場所
1・2号館(1階部分)

敷地入口

1号館玄関ホール

多目的トイレ

エレベーター前

2号館玄関ホール



車いすや誘導ブロックの説明を受けて体験へ!

バリアフリー教室 in こども見学デー

沖縄総合事務局
平成28年8月3日開催

車いすの乗車体験、アイマスクと白杖(はくじょう)を使った歩行体験、体におもりとゴーグルをつけた高齢者体験の3つを行いました。
参加者74名(小学生70人、幼稚園生2名、中学生2名)

アイマスク
白杖体験



白杖を使って障害物がないか確認

車いす体験



少しの段差やスロープを進むのも結構大変

高齢者体験



足と手におもりをつけて、ゴーグルも装着